

- 現代日本とあなた
- 学問は意思と気力
- 輝かしい明治の四年間
- 能力が抑圧されている
- 学問の楽しさ
- 民衆のためになる喜び
- まず事実をみることから
- どう生き、どう学ぶか
- 小繫部落と私の学問
- 学問に学歴はない



● かいのう・みちたか
 一九〇八年長野県生まれ。
 東京帝国大学法学部卒。法学博士。
 専攻は民法と法社会学だが、つねに現実の
 具体的問題に関心をもちつつ研究を進めている。
 早稲田大学・東京都立大学教授を歴任、
 一九六四年小繫事件弁護のため弁護士となる。
 のち、東京都公害研究所所長。一九七五年三月歿。
 著書に『入会の研究』『裁判』『小繫事件』など。



98 いかに生き、いかに学ぶか



戒能通孝

講談社現代新書

430
★★★★

ISBN4-06-115498-2 C0212 ¥480E(4) 定価=480円



98 講談社現代新書

いかに生き、 いかに学ぶか



戒能通孝

学問の場合は、学校だけにでなく、
 むしろ、実社会の中にこそ存在する――。
 小繫事件を通して、日本の民衆の
 すばらしい底力に感動した著者は、
 同時に、真の学問のあり方を教えられる。
 本書は、この貴重な体験をもとに
 書かれた若い世代への提言の書である。

まえがき — 若い人々のために —

現在の日本の学校制度の一つの特色は、学習をおもしろくないものに、おもしろくないものにとしていることではないかと思えます。学校のほか、入学試験も学習に水をかけていることは事実です。本来は非常におもしろいものであって、放^{ほう}っておけばだれにでもできるようなことが、学校を通し、入学試験を通し、おもしろくも何でもないものにされているのです。

学校制度は、学習をおもしろくないものに行っているだけではありません。学校はしばしば青少年から自信を奪^{さら}い、自信喪^{そう}失^し状態^{じょうたい}にしています。自信がなくなった結果、折角の才能を伸びなやませ、「俺^{おれ}はだめだ」と思い込む人が少なくないのです。私はそれを、非常な国家的損失であり、社会的損失であると信じています。その損失は何かで取り返さねばなりません。私がこの著書でいいたいことは、まさにそうした事実です。

本書は、自らエリートであると信じ、かつエリートである理由として、特定の大学卒といったことのほか、何も挙^あげることができない人には、読まれても無益です。なぜならば、この著書は、そうした人々のために書いたものでなく、そうした人々を批判するために書いたものだ

からです。

「自分の理想を正直に言えば、自分だけができるだけよい条件の下で勉強し、自分以外の人は勉強できなくなることを望んでいる」と告白した、いわゆる名門校の高校生がありました。こうした意見はきわめて正直な意見であって、そのような正直な意見を述べることができる環境の生まれたことは、ある意味ではよいことかも知れません。だがそれにもかかわらず、こうした意見の持ち主は、将来いつか何になるでしょう。彼らは必ずエゴイストになります。ただでさえエゴイスト過剰の日本で、この上エゴイストが集団的に増加したならば、日本の将来は安全でしょうか。私はこのことをむしろ恐れているのです。

エゴイストの学問は、真の学問ではありません。それは学歴をとるための勉強ではあるが、社会に対して何かの寄与をする学問には決してなることがないのです。その勉強は、学歴とともに終わります。そして学歴とともに終わった学問は、非常に早く意味のない学問になり、無知・無学と必ず同じことになるのです。学問はもちろんそんなところにはありません。学校は、少なくともある種の学校は、学問をするためにあるのではなく、学問をしないためにある施設に、残念ながら変わっているのです。

けれども真の学問は、必ずどこかにあるはずです。そして私は私なりに、学問とは何か、学

習はどうすればよいか、この数年間若干の経験をしてきました。私の経験は、現象的には特殊です。しかし存外にも私だけのことではなく、形を変えれば一般的なものではなかったかと思っています。そこで私は、自分の経験したことを、率直に公表しようと考えました。

学習は意思があれば非常に容易です。学習の前提には、自信と意思が必要です。その自信と意思は、どんなに水をかけられても、必要に当面すれば、必ず生き返るに違いないのです。外国語くらい、数学くらい、物理学・化学くらいは、だれにでもできます。法学・政治学・経済学など、人文・社会科学でも同じです。意思があれば、学習はだれにもできます。私は、そのことを述べてみたかったので、本書を書きました。

私の経験が、あなたに役立つなら幸福です。必要度や意思は、若いあなたの方が私よりはるかに上だといわねばなりません。私はすでに怠けました。しかしあなたが怠けたら、日本の未来は暗くなります。学問くらいだれにもできると信じつつ、私はこの著書をあなたに贈りたいと思っています。

昭和四十一年十一月

戒能通孝